

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目実技確認テスト  
受験者用手引き

1. 本手引きの位置づけ

本手引きは、「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目実技確認テスト実施要項」にもとづき実施する実技確認テストに関して、受験者が事前に確認すべき事項をまとめたものである。

2. 実技確認テストの流れ

受験者は指定された場所に集合し、テストの説明を受けたのち、以下の流れで受験する。

- カテゴリーⅠ：救急対応
- カテゴリーⅡ：コンディショニング・リコンディショニング
- カテゴリーⅢ：安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防

(1) テスト前の待機

- ① テキストや電子機器・通信機器の電源を切る。
- ② 持ち込み可能物品の点検を受ける。
- ③ テストの説明を受ける。

【注意事項】

- ・ 持ち込み可能物品の点検で、プレーヤー役の安全を確保できないと判断された場合、テスト実施所に用意されている物品を使用する。

(2) テスト問題の受け取り

- ① 問題用紙(カテゴリーⅠ・Ⅱ)を受け取る。
- ② 問題用紙を黙読し、実技・指導内容を考える。問題用紙に書き込むことができる。(制限時間：4分間)

(3) テストの受験

- ① 持ち込み可能な物品と問題用紙を持って入室する。
- ② テスト実施所に用意された物品を確認する。
- ③ カテゴリーⅠの問題用紙を音読する。
- ④ カテゴリーⅠの実技・指導を行う。
- ⑤ カテゴリーⅡの問題用紙を音読する。
- ⑥ カテゴリーⅡの実技・指導を行う。
- ⑦ カテゴリーⅢの問題用紙を受け取り、黙読する。
- ⑧ カテゴリーⅢの問題用紙を音読する。
- ⑨ カテゴリーⅢの実技を行う。
- ⑩ 問題用紙を検定員に渡し、退出する。

【注意事項】

- ・ 時間は検定員の手元の時計で計るため、受験者の腕時計はあくまで目安となる。
- ・ 問題用紙を参照しながら実技や指導を行うことは可能だが、手に持たずに適切な場所に置く。
- ・ 終了1分前に検定員が通知する。制限時間を超えた実技・指導はできない。

- ・ テストを開始したものの、受験者の事情でテストの実施が続けられない場合は、検定員に途中棄権を申し出て退出する。途中棄権の場合は、テスト当日に再テストを受験することができない。
- ・ 受験者からプレーヤー役への実技・指導が概ね 1 分間無い場合、検定員から途中棄権をするか確認する場合がある。
- ・ 検定員に質問することはできない。また、検定員から受験者に質問することもない。
- ・ 指定部位の左右間違いは「B:不可」となる。ただし、カテゴリーⅠ・カテゴリーⅡでは受験者が左右間違いに途中で気がつき修正した場合はマイナス評価にはならない。また、カテゴリーⅢではテーピングする指定部位の左右間違いをプレーヤー役から指摘されて修正した場合はマイナス評価にはならない。
- ・ 受験者同士でカテゴリーⅢのプレーヤー役を行う場合、テーピングの指定部位の左右間違いに気がついた場合は、速やかに受験者に口頭で指摘する。(例:テーピングを巻いているのは右足です。)ただし、テーピングの指定部位の左右間違い以外でテーピングテープの種類やテーピングの手技の選択、巻く範囲や肢位に関する指摘は一切できない。

#### (4) テスト後の待機

- ① 待機
- ② 結果公開

#### 【注意事項】

- ・ テスト後の待機中は、電子機器・通信機器の使用を禁止する。
- ・ トイレの使用などで待機室を出入りする際は、電子機器・通信機器を置いていく。

### 3. 受験者が持ち込み可能な物品

#### (1) 関節角度計、メジャー、テーピング用ハサミ、テープカッター、テーピング用足置き

テスト中に実技・指導で使用できる。中が見える透明な袋・ケースに入れる。

#### (2) 筆記用具(ペン、鉛筆、消しゴム等)

テスト問題配布所でのみ使用できる。

#### (3) 腕時計(ウェアラブル端末\*含む)、ハンカチ、ティッシュ、飲み物

テスト中に実技・指導で使用できないが、テスト実施所に持ち込むことができる。

\* ウェアラブル端末は、時計およびタイマー機能のみの使用に限定し、通信機能は切る。

最終更新日:令和 7 年 6 月 11 日